
NOT ノーマル

トーポ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

NOTノーマル

【Nコード】

N0373Y

【作者名】

トーポ

【あらすじ】

俺の名前は宮内仁志。

どこにでもいる普通の高校生。

そんな俺が疲れ果てて帰ってきた家には、

見知らぬ一人の女の子がいた――

そこから俺の人生は大きく変わってしまった！！

そんな俺の普通で普通な物語。

第一話 なんでもこんなことだ・・・(前書き)

長編初投稿です。わかりにくいところや誤字・脱字等
たくさんあると思いますが、どうかよろしくお願いいたします。

と思いながら声をかけてみたら、

「うるせーぞ気易くしゃべりかけてんじゃねえよ!!」
とか言われちゃって、ちょっぴり傷つきながら帰っていたら、

知らない人に肩ぶつかって、あ、これやばいなあとか思っていたら
「なに肩ぶつけてんだよアアン！」
って言われて

(マジ!?このご時世に肩ぶつかってほんとにキレてくる人いるの
?!)

もちろんダツシュで逃げて

愛しの我が家が見えて、これで助かったー

と思つて家に入ったら(ちなみに一人暮らしだよ!だつて一人だも
ん!!)

その中に見知らぬ女の子がいたからである

第一話 なんでこんなことだ・・・(後書き)

わかりにくくてすみません・・・

次回からは少し進めていこうと思います。

誤字・脱字等あればご指摘よろしくお願いいたします。

第二話 ヒーローだから……！（前書き）

第二話です。

誤字・脱字等あればご指摘よろしくおねがいます。

あらすじ

この俺宮内仁志が家に帰ってきたら、
そこになんと女の子がいた！！
一体どうなる俺？

第二話 ヒーローだから!!!

「ええつと……」

こうゆう場合、俺は一体どうすればいいのだろうか。
俺が考えていると、向こうから声を掛けてきた。

「世界を救ってほしいの。」

………ハア？

「いやいや世界って……」

なにを寝ぼけているのだろう。とりあえず帰ってもらおうか。

「だーから、世界を救ってって言ったんだよ？」

「お前なあ、いきなり何を言い出すかと思えば世界？

この平和で平凡な世界を？しかも俺に？なんで？」

「それは……」

「それは？」

「あなたがヒーローだから！」

「よし、帰れ。」

「なんでよ……!!!」

「はいはい。ヒーローごっこはおうちに帰ってやりましょうねー！」

「まじめにいつているんだよ!!!」

「そんなこと信じられるかっての。」

「なんで？あなたには能力ちからがあるじゃない。」

「はいはい。ん？お前今もしかして……能力ちからっていったか？」

「言っただよ？」

「なぜ知っている？」

そう。俺には能力ちからがある。といつても、それは握力や筋力がすごいというわけではない。そして、魔法や術を使えるというのでもない。

ただ単に、限界げんかいを引き上げることができるのだ。ただし、それも無制限に引き上げることができるのではなく大きく3つにわかれて引き上げることができる。

それが
アタック・ディフェンス・スピード
攻撃・防御・回避

この3つである。

細かく言うと、攻撃の部類なら、殴る・蹴る・叩くなど細かく分かれているが

大抵の人は1つしかあげることができない。

それ以外は引き上げようにもあげることができないのだ。

しかし俺はなぜか、

全てを引き上げることができる。

生まれたてそうだった。

周りは1つしかあげられないのに、自分はすべてを上げることができる。

その事実には、当時は喜んだものだ。

しかし、次第にある事実に気付いた。

全て、まんべんなくしかあがらないのである。

普通は1つに特化しているため、その1つを極めれば良かった。

しかし俺はまんべんなくしかあがらなかった。

どれだけ努力をしてもある数値から上がることはなかった。そしてなにもかも中途半端のまま、そのまま落ちぶれていつてしまった。

だつてそうだろう？

周りは1つに特化しているからその能力に自信を持っている。

だけどおれは全てが中途半端だから

勝負事アタックしても、ほとんど勝てなかった。

攻撃特化アタックの奴なら

攻撃アタックでは当然勝てない。

だからといって防衛ディフェンス・回避スピードで

勝負ディフェンスしても防衛では破られるわ、

回避スピードでもいずれかは捕まってしまう。

しかも俺は3つの能力ちからを全部使うわけだから体力の消費も人より早い。

こんな不便な能力を持って、しかも電池切れも早い。

そんなおれが落ちぶれるのも当然だろう？

そんなおれにあらうことかヒーロー？

やめてくれよ、人違いだろう。

「そんなことないよ!!!」

「うおっ！なんでお前俺の考えていることが分かったんだ？」

「それはさておき。」

「さておきどころじゃないと思うんだが…」

そんな時だった。

コンコン。

「ん？だれだろう？」

「???」「すいませーん」

「はいはい。いま行きますよーっと。」

ガチャ。

「誰です…か…?」

「???」「とりあえず死んでもらえませーん???」

「ハア？」

ドゴーーーーー！

第二話 ヒーローだから!!! (後書き)

なんかしょーもなくてすみません・・・
できればつぎもついてきてください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0373y/>

NOTノーマル

2011年10月30日15時11分発行